

講師プロフィール

小島隆矢（早稲田大学人間科学学術院准教授）

東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了、博士（工学）。

東陶機器株式会社、東京大学助手、建設省（後に独立行政法人建築研究所）主任研究員を経て、2007年より現職。子ども安全まちづくりパートナーズ理事。専門分野は環境心理学。著書に『よりよい環境創造のための環境心理調査手法入門』（技報堂、分担執筆）、『Excelで学ぶ共分散構造分析とグラフィカルモデリング』（オーム社、2005年度日本感性工学会出版賞受賞）、『マンガでわかるナースの統計学』（オーム社）など。地域環境に関する意識調査、安全・安心に関する全国的意識調査、犯罪不安等に関する意識調査などの実績がある。

西田佳文（産業技術総合研究所デジタルヒューマン工学研究センター首席研究員）

1998年東京大学大学院工学系研究科機械工学専攻博士課程修了、博士（工学）。

1998年通商産業省 工業技術院 電子技術総合研究所入所。2001年改組により、独立行政法人 産業技術総合研究所 デジタルヒューマン研究ラボ研究員。2003年同研究所 デジタルヒューマン研究センター人間行動理解チーム長。2008年～2012年同研究所 サービス工学研究センター大規模データモデリング研究チーム兼務。2010年よりデジタルヒューマン工学研究センター生活・社会機能デザイン研究チーム長。2011年より同研究所 上席研究員。2013年より現職。キッズデザイン、傷害予防工学の研究に従事。日本ロボット学会論文賞・研究奨励賞、第一回デジタルコンテンツ船井賞、ドコモ・モバイルサイエンス賞、産総研理事長賞などを受賞。

重根美香（明治大学理工学部建築学科研究推進員）

1999年宇都宮大学農学部森林科学科卒業、2004年東京大学新領域創成科学研究科環境学専攻自然環境コース博士課程修了、博士（環境学）。

2004年独立行政法人森林科学研究所の非常勤研究員を経て、2005年出産育児のために退職。2008年より明治大学理工学部研究推進員となり現職。子ども安全まちづくりパートナーズ事務局長。専門分野は子どもの環境学習や子どもの安全。当該プロジェクトでは子どもの安全学習のコンテンツ作成や地域住民または小中学校児童生徒の安全安心に関する意識調査の分析等を行っている。

下田太一（NPO 法人青少年メディア研究協会理事長。合同会社ロジカルキット代表）

2000年 アメリカ ペンシルベニア州へ留学。2006年 帰国後、家族が立ち上げた市民活動団体「ねちずん村」の調査員として子どものケータイ利用問題の調査研究を始める。2009年 NPO 法人青少年メディア研究協会講師を経て、情報教育の普及を目的とした合同会社ロジカルキットを設立。全国の小中学校やPTAを中心にケータイ利用問題に関する講習会活動を行う。2012年 父の後を継ぎ、NPO 法人青少年メディア研究協会理事長に就任し現職。児童生徒、保護者等を対象とした講演会等も多数行っている。

原田豊（科学警察研究所犯罪行動科学部長）

1979年東京大学文学部社会学専修課程を卒業。学術博士（犯罪学）。専門は犯罪社会学。同年、科学警察研究所に入所。1986年8月から2年間、フルブライト奨学生として米国ペンシルベニア大学犯罪学・刑法研究所に留学。留学中に書いた研究論文 "Modeling the Impact of Age on Criminal Behavior: an Application of Event History Analysis" が、日本人としては初めてアメリカ犯罪学会の最優秀学生論文賞を受賞。2000年8月にペンシルベニア大学から博士号を取得。科学警察研究所犯罪予防研究室長を経て2004年から現職。犯罪・非行の経歴の縦断的分析、GISを用いた犯罪の地理的分析など、先進的な手法による実証的犯罪研究に取り組むとともに、防犯まちあるき支援ツール『聞き書きマップ』の作成と公開などを通して、研究成果の市民への還元に努めている

吉永真理（昭和薬科大学臨床心理学研究室教授）

一橋大学社会学部、東京大学大学院医学系研究科保健学専攻修了。博士（保健学）。早稲田大学非常勤講師、国土舘大学工学部准教授を経て現職。町田市子ども・子育て会議副議長。こども環境学会理事。2006年より昭和薬科大学学生相談室で臨床心理士としてカウンセリングを担当している。その支援のための活動を行っている経験を活かし、RISTEX 統合実装プロジェクトにおいて、子どもの心の健康を守ることに資するワークショッププログラムを開発中（その他獨協大学保健センター精神衛生相談や関東労災病院神経科で非常勤職による臨床経験あり）。児童生徒のメンタルヘルスについての活動としては、都内で区立小学校学校関係者評価委員長を長年務める傍ら、世田谷区立三宿小学校、町田市立金井小学校、新宿区立花園小学校、相模原市立光が丘小学校で講演経験などの実績がある。

山本俊哉（明治大学理工学部建築学科教授）

千葉大学大学院修士課程（建築学専攻）修了後、建築・都市計画コンサルタントのマヌ都市建築研究所を経て、2005年より明治大学理工学部専任教員として着し現職。博士（学術）。専門分野は都市計画、建築・都市安全学。

現在、子ども安全まちづくりパートナーズ理事、NPO法人向島学会副理事長、一般財団法人都市防災研究所理事、地域マネジメント学会理事、市民安全学会理事などを兼任。著書に『子どもを事故と犯罪から守る環境と地域づくり』（中央法規出版）、『安全学入門』（研成社）、『防犯まちづくり 子ども・住まい・地域を守る』（ぎょうせい）など。

石附 弘（日本市民安全学会会長）

1969年警察庁入庁後、兵庫県警などの課長、内閣官房長官（後藤田、小淵両長官）秘書官、長崎県警察本部長、防衛庁審議官等を経て、現在、（公財）国際交通安全学会専務理事、日本市民安全学会会長、厚木市および豊島区のセーフコミュニティ専門委員、JST 社会技術研究開発センター統合実装PJ推進アドバイザー、日本セーフティプロモーション学会理事、神奈川県警察ボランティアサポート連絡会委員長、一般社団法人マシオンライフ継続支援協会副理事長など。